

「電子オルガンとのより良いインターフェイスを求めて」

< 穏やかな変革のための提言 >

名古屋芸術大学講師

jet全日本エレクトーン指導者協会

名古屋本部 指導スタッフ

山口 隆啓

はじめに

楽器の歴史を紐解いてみると、制作者と演奏者がより良い「音」づくりをめざして綿密な共同作業を進めてきたと思われる。

たとえば、ヴァイオリンであればより大きな音、強度を求めストラディバリ家のような職人達によって絶え間ない改造が行われ非常に完成度の高い楽器が完成された。

また1800年代に入って発明された「あごあて」は演奏技術を飛躍的に向上させたといわれる。当然「弓」の改良も行われたであろう。

1800年代後半に誕生した、チェレスタ、サクソ、また1900年代に入ってから発明されたビブラフォンなども比較的楽器の歴史から見ると新しい部類に入るが、やはり演奏者の意志と制作者の意志の共同作業で改良が進められてきたと思われる。

ほぼ機能的に完成されたといわれるピアノでさえ、各メーカーの探求心は相当なものである。

ふりかえって電子オルガンはどうであろうか？

この10年の全日電研の歴史をひもとけば分かるように各人の努力により「電気を使うから云々」などというナンセンスな論議はないであろうが、（ビブラフォンのようにマリンバ[木]を[金属]にし、ビブラートをつけるために電動ファンを付けたという事実から見ても）

演奏者と制作者が本当に共同作業をしてきたのか？という問いかけには私自身、判然としない気持ちを持っているのも確かである。

昨年この論文集に発表した「電子オルガンとのより良いインターフェイスを求めて」では機能理解という観点から、電子オルガンと奏者のインターフェイスのための効果的な指導法をまとめたが、今回は一歩進めて奏者、指導者（つまり使用者）の目から見たヤマハの[EL90]に対する提言を具体的にしてみたいと思う。

『 < 穏やかな改良 >こそ今後の電子オルガンのめざす姿ではないか？ 』

そう思い今回はまとめてみた。

たいへん大胆なことを記すかもしれないが、これらは昨年のパート にある研修実施状況、また昨年、拙者が上梓した「ここが知りたい EL90/EL87 Q & A」の講座参加者、のべ1000人の生の声を集めたものに、私自身が考えていることをまとめてみた。

「ここが知りたい EL90/EL87 Q & A」講座実施状況

講座実施会場	日程	参加者	講座実施会場	日程	参加者
A	10/11	30	N	01/23	50
B	10/13	22	O	02/19	20
C	10/20	25	P	02/23	12
D	10/24	25	Q	04/19	45
E	10/25	30	R	05/15	10
F	10/27	20	S	05/17	7
G	10/31	25	T	05/29	7
H	11/02	12	U	05/30	15
I	11/14	15	V	05/31	12
J	11/17	25	W	06/05	50
K	12/01	25	X	06/06	25
L	12/12	8	Y	06/07	8
M	12/15	30	Z	06/11	30
				計	583人

音色

「良い音」への探求は是非続けてほしい。「良い音」といってもエフェクトなどを含めたトータルな音ではなく、ここでは音源に限った話である。

それはAWM音源でもVA音源でも何でもかまわないが、1つ1つの音にこだわりを持ち、皆が納得のいく音（そんなことは不可能にちがいないが）をつくりあげてほしい。

EL90の音源もすばらしいが、STRINGS 5の音量が他のSTRINGSに比べて大きいとか、CHORUS3のように位置によって音質がいびつ、など整理も必要かと思われる。

また、時代が求める音もある。タイムリーな対応が求められる。

いろいろな音楽ジャンルへの対応も必要である。音色が片寄らないこと。EL90も最初はクラシック向けの楽器？と穿った見方をされたように思う。

VOICE DISPLAY

音色を確認するのにたいへん便利だが、全ての音色名が表示されるためまぎらわしい。

ボリュームが0の所は表示されない方がすっきりして分かりやすい。

指導する立場からいえばメモリーナンバーも表示されるとありがたい。奏者より視点が高くなることが多いので、UK.LKの間にあるメモリーが見にくい。

ドットボタン

音色、リズムとも2つずつあるがこのうち1つをユーザー用に独立させてほしい。

ほとんどの場合レジストの切り替えをメモリーで処理するのでドットボタンは1つあれば充分である。ページでめくるより操作が1つ少なくて済み便利である。

M D R

分離録音・再生の仕方がまだ十分に理解されていないと思う。[LEAD]を別ボタンにした方が分かりやすいかもしれない。が、H Sから続いている操作性が変わるので議論の分かれるところ。

M D Rにシーケンサーの機能を完全に持たせるかどうかは後述するが、[CONTROL]だけはステップライトができるようにしたほうが良い。現状ではレジストチェンジを入れるのに苦勞をしている。H S時代に[CSP]があっただけにそういう思いは皆強いようである。

もう一つの提案は[TEMPO]のリセットである。注意はしているのだが[TEMPO]に関するトラブルは多い。フロッピーディスクを抜くとリセット(TEMPO 100%)されるとありがたい。ついでに[LEAD]の分離再生もキャンセルされると都合がよい。

EL87でディスクのバックアップがとれるようになったが(EL90では後でバックアップディスクヘルパーなる小道具が発売された)いかんせんディスクの抜き差しが頻繁に起こる。

メモリーの容量の問題かと思うが、最低1Mバイトは欲しい。ボタンを押したらあとは「見てるだけ」が理想。

RHYTHM PATTERN PROGRAM

パーカッションは互換性を持たせながら数を増やしてほしい。例えばフィンガースナップ、ピッチの違うスネアドラム、タムなど。

また、PROGRAMのボタンを押すと同時にUPPER/LOWER KEYBOARDVOICEのボリュームが0になると操作がひとつ少なくなり便利。

ディセーブルボタン

リズムのボリューム・テンポを固定するのに大変便利。リバーブ、ベースの音量なども環境に合わせて調整したいことが多い。ボリュームボタンを押しながらディセーブルボタンを押せばそのボリュームがメモリーボタンに関係なく固定されると良いのだが、、、。

テンポディスプレイ

イントロでリズムのボリュームOFFでカウントを取る時など、正面にあった方が演奏者の顔の位置が自然である。

終了操作

VOICE EDIT、RHYTHM PATTARN PROGRAMを終了するとき[if Not Saved, the Date~]と確認が出るが必要ないように思う。すぐに[終了]してほしい。

M D Rでディスクのフォーマットをするとき[警告]が出た方が良い。

M I D I

完全にM I D I対応にするかどうかは議論が分かれるところ。最近ではコンピューターミュージックを楽しみたいという人も増えており、当然電子オルガンを音源として使いたいという要求も多くなるであろう。

GS/GM/XG音源などに対応するのは簡単であると思うが、精々[再生するのみ可能]にとどめた方が混乱しない。(フォーマットは従来の資産を活かす意味で、E-SEQ.にも対応してほしい。)

やはり電子オルガンは自己完結型で考えた方がよいのではないだろうか?ましてやシーケンスの機能を内蔵させてしまうと、その機能を理解することで時間を費やしてしまい本質からどんどん遠ざかっていくような気がするの私だけであろうか?

音をEDITすることに夢中になり、演奏の部分がどうしても疎かになってしまうのではないか?

これらは外部機器で処理できるようになれば良いと思う。そういった意味でのM I D I対応は賛成である。興味のある人は外部機器でEDITをすればよく、おそらくそれらは現ユーザーの10%以下ではないかと思われる。

ただ、M D Rの項で提案したように[CONTROL]のみはEDITできる機能を内蔵するとよいのではないか?

FOOT SWITCH

RHYTHM SEQUENCEのスタートがフットスイッチでできると便利である。途中からRHYTHM SEQUENCEをスタートさせる時、左手で[START]を押すのは不便であるし、[SYNCHRO]を押すのも一呼吸遅れる感じがする。

外部端子

RHYTHM INの他にRHYTHM OUTがほしい。アンサンブルではRHYTHMのみの音量バランスがとれるとミキシングがしやすいし、たいへん助かる。

IN/OUTどちらか一つと言われればOUTを選ぶ。

形状、利便性

現状のEL90は家庭、レッスン室において置くのには何ら問題はないが、持ち運ぶとなるとたいへん厄介なことになる。もちろんコンサートなどではホールでレンタルすれば良いのだが、ピアノに比べ備品率は心許ない状況である。

最近では生涯教育、音楽療法、老人ケア、ママさんコーラスの伴奏など、地域社会に於ける電子オルガンの役割も大きくなっている。こうした時「オルガンの手配をどうするか?」と皆一度は悩まれたことはないであろうか? 送料はバカにならない。そうかといって自家用車に載せて運ぶのは至難の業。

そこでひとつ提案がある。組立式で持ち運びやすく、どんなP Aとも相性の良い再生専用オルガンはどうか？

最近では現場でレジストを組むというより、ほとんどが仕込み9割の状況である。

極端なことをいえば、フロッピーの入り口と鍵盤さえあればOKである。へたくそな絵だが下にイメージ図を書いてみた。

(これはステージ用ではなく、あくまでも上記のような地域に於ける音楽活動に適したオルガンという意味である。大きなコンサートでは見栄えのこともあり、EL90またはELXを使うのが最善である。誤解の無いように。)

- コンパクトにするために1段鍵盤にする。6オクターブでオルガンでいうところの上鍵盤、下鍵盤のスプリットが自由にできるようにする。
- 音色、エフェクトなどの変更は極力ボタンを少なくする意味もあり、各キーボードホィール1個(ドットボタン)とし、ディスプレイとコントロールボタンを使って設定できるようにする。
- KAに繋ぐのが理想だが、色々なP Aに繋ぐことが考えられるので、イコライザー、欲を言えばDSPを内蔵する。
- 不格好でも良いので、簡単に組立ができるように。(ネジなどは大きめに。女性でも組み立てられる。)

マルチメディア電子オルガン

電子オルガンの将来像を描いてみたい。多分に私の趣味を反映したものになるのはご容赦いただきたい。まず、マルチメディアの中心になるのは「通信」機能である。

色々な情報がすぐに取り出せることが必要で、これからのインフラの整備にともなって「教室」「指導」の方法が根本から変わる可能性を持っている。

今は電話回線がまだ主流なのでとりあえず「モデム」を内蔵させるのがよいのではないかな。もちろんコンピューターの世界ではあたりまえになっているが、オルガンに繋げるとなると、めんどろであるし置場所に困る。

「モデム」が入ればメーカー、出版社からの「データ配信」が楽に行える。もちろん草の根的に、全ての指導者間でのやりとりも自由である。OSをどうするか？課金システムをどうするか？など技術的な問題はメーカーにまかせるとしても、双方向の情報のやりとりは今後益々重要になる。

「この曲のアルツァ 譜出てないかしら？」「今月の[エルクトンシティ渋谷]コンサート情報！」「ユーザー 仮新発売！」「やっと発表会用のレジストができた。すぐに〇〇ちゃんに送ろう」など文字の情報はもちろんのことデータのダウン、アップロードも簡単に行える。これらを行うには、カラーディスプレイ(TFT)、漢字ROM等は必需品になる。

譜面も同時にディスプレイに表示できないかと思うのは人情だが、著作権、版権の関係でまだ解決すべき問題があり、すぐには無理であろう。

j e t (全日本エルクトン指導者協会)のような組織にとっては、[情報の伝達]が命であり、すばやく末端まで届くシステムが必要である。(研修案内、教材案内など)

[ワープロもできる][インターネットもOK]では電子オルガンの位置づけがおかしくなってしまうので望まないが、機能を絞り込めば(せめてFAX並の手数で)電子オルガンの9割を占める女性ユーザーでも扱えると思うがどうであろうか？

当然HELP機能も充実するであろう。(ディスプレイに取扱説明が表示される)

まとめ

楽器と奏者が成長するには操作の一貫性が大前提であり、モデルチェンジをするたびにそれが変わるようでは、芸術性を高めることは無理であることは明らかである。

電子オルガンは過去この矛盾をずっと引きずってきており、混乱が続いたのも事実である。今回は電子オルガンを愛するがゆえに過去の経緯をよく見直し、今後どうするべきか？ということを私なりに<穏やかな変革のための提言>としてまとめた。

モデルチェンジごとに操作が変わり、資産が失われるのは辛い。互換性を保ち、同じような操作が保たれれば、よりよい改善であるモデルチェンジは大歓迎である。

またそこから真の意味での芸術性も高まるであろう。この全日電研活動と合わせて、電子オルガンの位置づけが高まることを願って、この項を終わりにしたい。